



1 起渡船場跡(定渡船場跡)
 起の渡し(起渡船場)には、ここ金刀比羅社前の定渡船場のほか、宮河戸と船橋河戸の3か所の渡し口がありました。定渡船場は、常用された渡し口で、幾度も改修を受けた常夜燈があり、対岸は新井村でした。川幅540間余(約982m)で、定渡船2艘・置船1艘・御百渡船1艘の合計4艘のほか、鶴岡船17艘、馬船14艘があり、船頭は20人でした。

2 人柱観音
 慶長(1596~1615)のころ、木曾川の分流、小淵川の築止の難工事に人柱として濁流に身を投じたと伝えられる与三と、濃尾大橋の架橋工事で亡くなった3名をまつ人柱観音が昭和32年(1957)に開設しました。

3 旧湊屋主屋
 定渡船場に向かう往還の角に、幕末に建てられた商家の旧湊屋文右衛門家の主屋があります。明治24年(1891)の濃尾地震は、起宿のほとんどを全壊させましたが、この家は数少ない江戸時代の建物です。

4 宮河戸跡
 大明神の前から対岸の新井村の燈明河戸への渡し口で、起宿の商家が商う物資を運ぶ船が発着する港でした。

起の大きいちょう
 樹高30mほどのいちちょうの巨木。昭和38年愛知県指定天然記念物

起のやまがき
 野生の栲の大木で平野部に生育している例は極めて珍しい。昭和42年愛知県指定天然記念物

5 披本陣跡
 起宿の本陣や脇本陣に異変が生じた際の待避所として、隣の小信中島村の吉田家をこれに当て、披本陣としました。文化8年(1811)以降、紀州侯一行の宿泊がありました。

6 起宿脇本陣跡・旧林家住宅
 起宿脇本陣を享保5年(1720)以降世襲した林家の建物は、明治24年(1891)の濃尾地震で倒壊しました。大正初めに建て直され、現在は一宮市尾西歴史民俗資料館別館として内部と日本庭園を公開しています。

7 一宮市尾西歴史民俗資料館
 美濃路の情報発信基地として、常設展や特別展などで美濃路の歴史を紹介しています。

8 駒塚道道標
 美濃路の唯一の道の両側に塚が残っており、榎の大木が今なお生茂っています。昭和12年(1937)に国の史跡に指定され、西側には小公園があります。

9 富田一里塚
 美濃路で唯一の道の両側に塚が残っており、榎の大木が今なお生茂っています。昭和12年(1937)に国の史跡に指定され、西側には小公園があります。

10 天神の渡し跡
 日光川は、かつて木曾川の主流のひとつで、慶長年間(1596~1615)までここに渡船場があり、「天神の渡し」といっていました。のちに川幅が狭められて渡しは廃止されました。

11 孝子佐吾平の碑
 吉藤村の住人で萩原宿の馬方だった佐吾平は、盲目の母を孝行する息子として評判が高く、ある日驟れ馬を取り押さえるため参勤途上の明石藩主の行列を乱して、無礼打にされたといわれています。

12 萩原宿本陣跡
 萩原宿本陣跡は森権左衛門が置きましたが、寛永年間(1624~1643)には、日光川筋の西之川一帯の新田開発につとめたことで知られます。

13 萩原宿の上問屋場跡
 萩原宿には上町と下町の2か所問屋場が置かれ、上問屋・下問屋といわれ、2日交代で人馬の継立の業務を行いました。ここ上問屋は鶴岡家で、下問屋は木全家が勤めました。

14 馬頭観音(左)
 宝暦13年(1763)に萩原の馬持ち12名が発起人になって建立しました。

15 正瑞寺
 中町の正瑞寺の曲がり角に高礼場が置かれていました。

16 高木一里塚跡
 明治初年まで道の両側に塚があり後も残っていたようですが、いつの間にか円形の田になっていたといえます。東側に昭和37年(1962)「一里塚址」の石碑が建てられました。

17 西御堂
 中島の西御堂は、かつての起宿の中心地であり、多くの商家がここに集まりました。

18 中島道場
 中島の道場は、かつての起宿の中心地であり、多くの商家がここに集まりました。

美濃路 散策マップ
 美濃路

19 中島道場北
 中島の道場北は、かつての起宿の中心地であり、多くの商家がここに集まりました。

20 中島道場
 中島の道場は、かつての起宿の中心地であり、多くの商家がここに集まりました。

21 中島道場南
 中島の道場南は、かつての起宿の中心地であり、多くの商家がここに集まりました。